



感 動 を ・ と も に ・ 創 る

ブロードバンド&ISDNルータ/TA

RTA55i

ISDN&ブロードバンド無線ルータ

RTW65i

ブロードバンド無線ルータ

RTW65b

ISDN&ブロードバンドルータ/TA

RTA54i

リモートルータ

RT60w

公開β 新機能ガイド

本機をお使いになる前に本書をよくお読みになり、
正しく設置や設定を行ってください。本書中の警告や
注意を必ず守り、正しく安全にお使いください。
本書はなくさないように、大切に保管してください。



目次

本書について

本書は、ネットボランチホームページで公開された公開β版ファームウェアで新しく提供される新機能について説明します。新機能は次の5つです。

- ・インターネット電話機能
- ・ネットボランチDNSサービス機能
- ・PPTP暗号化通信機能
- ・IPv6通信機能
- ・UPnP機能

この内、RTW65bではインターネット電話機能に対応しません。また、RTA54i及びRT60wではPPTP暗号化通信機能には対応しません。

対象となる機種はRTA55i、RTW65i、RTW65b、RTA54i、RT60wの5機種です。本文中の図やパソコン画面の例は便宜上RTA54iまたはRTW65iを使っていますが、他の機種でもほぼ同じと考えてください。

ご注意

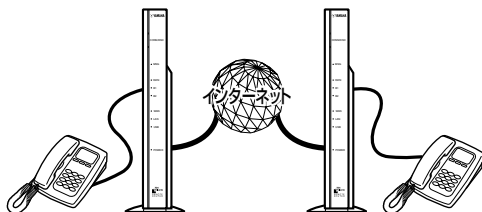
- インターネット電話機能とネットボランチDNSサービス機能、及びPPTP暗号化通信機能をお使いになる場合、プロバイダからグローバルIPアドレスが割り当てられていることを確認してください。グローバルIPアドレスは、「10.X.X.X」、「172.16.X.X～172.31.X.X」、「192.168.X.X」の3つの範囲以外のIPアドレスです。

インターネット電話を使う（VoIP通話）	3
インターネット電話機能とは？	3
インターネット電話機能のダイヤル先は？	3
操作の流れ	4
ネットボランチDNSサービスの ご利用にあたって	4
インターネット電話を利用できるようにする	5
通話相手を登録する	6
ネットボランチDNSサービスで ネットボランチ電話番号を取得する	8
通話する	10
Windows Messengerと 音声チャットする	11
ネットボランチDNSサービスを利用する	14
ネットボランチDNSサービスとは？	14
ネットボランチDNSサービスで ホストアドレスを取得する	15
ネットボランチDNSサービス利用規約	16
PPTPを利用してリモートアクセスする	17
本機で利用できるPPTPについて	17
必要な設定	17
接続相手を登録する	18
LAN内のサーバやパソコンを設定する	19
リモートアクセスするパソコンの 設定を変更する	20
本機へアクセスする	26
PPTPを利用してVPNを構築する （PPTP-LAN間接続）	29
PPTPを使用できるように設定する	29
PPTPで接続する	31
IPv6環境で使う	32
IPv6を導入する前に	32
IPv6を使えるように設定する	33
IPv6接続を確認する	34
UPnP機能	35
UPnP機能とは？	35
パソコン側でUPnP機能を使えるか確認する	35
UPnPを使用しないようにする/ 設定を変更する	37

インターネット電話を使う（VoIP 通話）

インターネット電話機能とは？

ADSLやCATVなどのブロードバンド回線でインターネットに接続している場合に、インターネット経由でRTA54iiに接続した電話機間で会話できる機能です。電話会社を通さずに通話するため、通常の電話料金はかかりません。



ご注意

- インターネット電話機能は、人の生命や高額な財産などを扱うような、高度な信頼性を要求される分野で使用する目的で設計されていません。本機により発生したトラブルや損失について、当社では一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- インターネット経由によるVoIP通話という特性上、インターネット電話機能による通話は第三者によって盗聴される可能性があります。あらかじめご了承ください。
- インターネット電話機能をお使いになる場合、プロバイダからグローバルIPアドレスが割り当てられていることを確認してください。グローバルIPアドレスは、「10.X.X.X」、「172.16.X.X～172.31.X.X」、「192.168.X.X」の3つの範囲以外のIPアドレスです。
- インターネット電話機能は、ADSLやCATVなどのブロードバンド回線でインターネットに接続している場合のみ利用できます（回線側に最低128kbit/sの帯域が必要です）。
- インターネット電話機能は、ネットワーク型プロバイダ接続でインターネットに接続している場合には、利用できないことがあります。
- 通話料は無料ですが、インターネットの利用料金（プロバイダ料金および回線料金）が別途かかります。
- インターネット電話機能は、ネットワークが混雑すると、音声が入り切れない場合があります。
- インターネット電話では、FAXやモデムは使用できません。

インターネット電話機能のダイヤル先は？

1. 通常の電話番号

sipアドレスという仕組みを使って、電話番号を「電話ユーザ名」と組み合わせで登録することで、通常の電話と同様に電話をかけられるようになります。

例：電話番号「03-1111-2001」を「sip:rta54i@yamaha.netvolante.jp」というsipアドレスに対応するように登録すると

インターネット電話に対応する識別番号（プレフィックス）をダイヤルしてから03-1111-2001にダイヤルすると、自動的に「sip:rta54i@yamaha.netvolante.jp」宛にインターネット電話をかけます。

したがって、インターネット電話機能を使用する場合は、通話相手がお互いのsipアドレスを知っている必要があります。sipアドレスは、「sip:電話ユーザ名@ホストアドレス」の形式で表されます。

sipアドレスの例

- sip:rta54i@yamaha.netvolante.jp
- sip:rta54i@133.176.200.1
- sip:rta54i@12345678.tel.netvolante.jp

電話ユーザ名は、本機のTELポートごとに任意に設定できます。ホストアドレスをすでに取得している場合はそのアドレスまたはグローバルIPアドレス、ネットボランチDNSサービスで取得した場合は電話アドレスをそれぞれ指定します。

2. ネットボランチ電話番号

ネットボランチDNSサービスを利用すると、8桁のネットボランチ電話番号が割り当てられます。☎ ☎ のあとに割り当てられたネットボランチ電話番号をダイヤルすることで、お互いに通話できるようになります。

操作の流れ

インターネット電話機能を利用するには、以下の準備が必要です。

1. インターネット電話を利用できるようにする

工場出荷状態では、インターネット電話は利用しない設定になっています(5ページ)。

2. 通話相手を登録する

本機のインターネット電話帳に、インターネット電話での通話相手を登録します(6ページ)。

なお、ネットボランチDNSサービスによって取得した電話番号(ネットボランチ電話番号)へダイヤルする場合は、電話番号をあらかじめ登録する必要はありません。

3. ネットボランチDNSサービスを利用できるようにする (ネットボランチ電話番号を取得する)

インターネット電話を利用するには、通話相手がお互いのグローバルIPアドレスを知っている必要があります。しかし、インターネットに常時接続している場合でも、割り当てられるグローバルIPアドレスは再接続時または時間によって変更される場合があります。

ネットボランチDNSサービスの電話アドレスサービスを利用すると、グローバルIPアドレスが変更されることにネットボランチ電話番号の対応付けが行われるようになります。変更されるごとに手動で設定する必要がなくなるので、便利です(8ページ)。

ご注意

ネットボランチDNSサービスをご利用になる前に、必ず「ネットボランチDNSサービスのご利用にあたって」(4ページ)および「ネットボランチDNSサービス利用規約」(16ページ)をご覧ください。

4. インターネット電話で通話する

「かんたん設定ページ」で通話相手を指定してから電話機をダイヤルすると、登録した通話相手につながります。

ネットボランチ電話番号にダイヤルする場合は ② ② のあとに番号をダイヤルします。

ネットボランチDNSサービスのご利用にあたって

ネットボランチDNSサービスを利用すると、不特定多数の方から、お使いのルータにアクセスされることが想定されます。そのため、悪意の第三者による不正アクセスにより、損害を受ける場合があります。また、お使いのパソコンを経由して第三者に対して被害を及ぼす可能性もあります。

ネットボランチDNSサービスのご利用にあたっては、お使いのパソコンのセキュリティ対策には、自己責任にて十分で配慮いただきますようお願いいたします。

DNSの正引き・逆引きについて

ネットボランチDNSサービスでは、登録ホスト名に関する正引きはできますが、逆引きはできません。逆引きを行うと、登録ホスト名に対するIPアドレスは、接続先のプロバイダで使用しているホスト名になります。

ホスト名・ネットボランチ電話番号の登録および更新について

ご利用中のプロバイダによっては、ホスト名およびネットボランチ電話番号の登録／更新内容がネットボランチDNSサービスにすぐに反映されないことがあります。あらかじめご了承ください。

ホスト名について

登録時の希望ホスト名によっては、ネットボランチDNSサービスでご利用できない場合があります。あらかじめご了承ください。

この場合は、別のホスト名を指定してネットボランチDNSサービスをご利用頂きますようお願いいたします。

インターネット電話を利用できるようにする

ご注意

以下の手順にしたがってインターネット電話を利用できるように設定を変更すると、本機が再起動します。インターネットへの接続が一時中断されますので、ご注意ください。

1 ブロードバンド接続設定を行い、本機を接続状態にする。

プロバイダからグローバルIPアドレスが割り当てられていることを確認してください。グローバルIPアドレスは、「10.x.x.x」、「172.16.x.x～172.31.x.x」、「192.168.x.x」の3つの範囲以外のIPアドレスです。

ご注意

グローバルIPアドレスが割り当てられていない場合は、インターネット電話機能を利用できません。

2 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

3 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

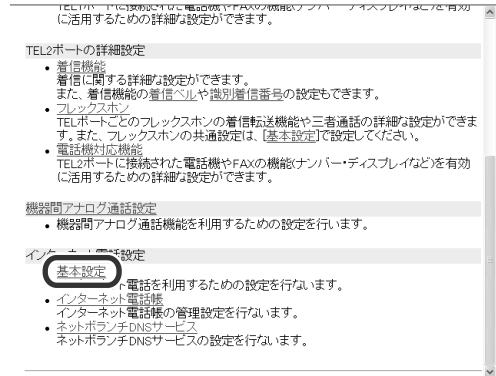
「トップ」画面が表示されます。

4 画面左側の[電話設定]をクリックする。

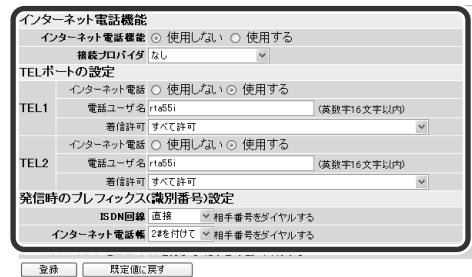
RT60wの場合は[かんたん設定]の[電話]をクリックします。

5 [インターネット電話設定]の[基本設定]をクリックする。

RT60wの場合は[インターネット電話設定]をクリックします。



6 必要な設定を行う。



インターネット電話機能

インターネット電話を使うときは[使用する]を選び、使用する接続設定を[接続プロバイダ]から選びます。

TELポートの設定

TELポートごとに、インターネット電話の設定を行います。ポートごとに個別に設定できます。

・ **インターネット電話:** インターネット電話を使うときは、[使用する]を選びます。

・ **電話ユーザ名:** ここに入力されたユーザ名が発信ユーザ名として使用されます。また、着信許可の設定で「電話ユーザ名が一致した場合に許可」または「電話ユーザ名またはネットボランチ電話番号と一致した場合は許可」に設定している場合は、着信の識別にも使われます。

TELポートごとに異なった電話ユーザ名を指定すると、インターネット電話機能の電話番号であるsipアドレスを最大で3つ(RTW65i及びRT60w)または2つ(RTA55i及びRTA54i)まで使い分けられるため、便利です。

- **着信許可:** インターネット電話が着信したときの動作を選びます。

発信時のプレフィックス(識別番号)設定

- **ISDN回線:** 通常のISDN回線で通話したいときに、相手番号前にどのプレフィックスを付けてダイヤルするかを選びます。
- **インターネット電話帳:** インターネット電話帳の相手と通話したいときに、相手番号前にどのプレフィックスを付けてダイヤルするかを選びます。

ご注意

ネットボランチ電話番号の相手と通話するときのプレフィックスは ② ③ に固定されていて、変更することはできません。

💡 ヒント

TELポートごとに異なる電話ユーザ名を設定してから、着信許可を[電話ユーザ名が一致した場合]に設定すると、特定の発信先からのインターネット電話を好みのTELポートに着信するように指定できます。

7 設定が終わったら、[登録]をクリックする。

本機が再起動します。

引き続き通話相手を登録します。「通話相手を登録する」(6ページ)の手順4から操作してください。

通話相手を登録する

本機のインターネット電話帳に、インターネット電話での通話相手を登録します。

💡 ヒント

- インターネット電話帳に通話相手を登録するには、相手のsipアドレス(インターネット電話ユーザ名やIPアドレスまたはホストアドレス)を入力する必要があります。これらの情報は、あらかじめ相手から聞いておくようにしてください。
sipアドレスについて詳しくは、「インターネット電話機能のダイヤル先は?」(3ページ)をご覧ください。
- ネットボランチ電話番号を直接ダイヤルする場合は、通話相手をインターネット電話帳に登録する必要はありません。

1 ブロードバンド接続設定を行い、本機を接続状態にする。

プロバイダからグローバルIPアドレスが割り当てられていることを確認してください。グローバルIPアドレスは、「10.x.x.x」、「172.16.x.x～172.31.x.x」、「192.168.x.x」の3つの範囲以外のIPアドレスです。

ご注意

グローバルIPアドレスが割り当てられていない場合は、インターネット電話機能を利用できません。

2 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

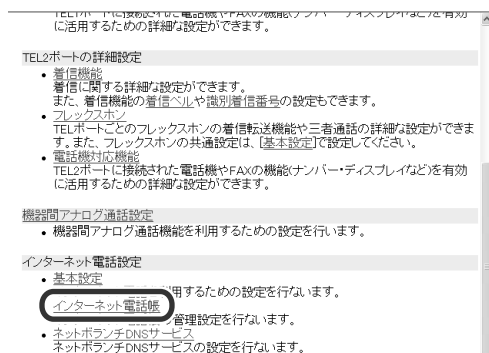
3 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

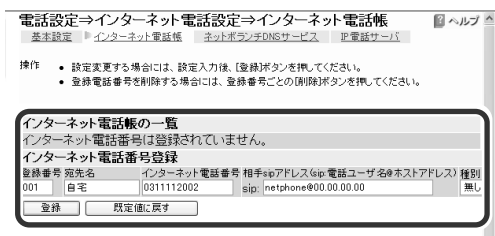
4 画面左側の[電話設定]をクリックする。

RT60wの場合は[かんたん設定]の[電話]をクリックします。

5 [インターネット電話設定]の[インターネット電話帳]をクリックする。



6 必要な設定を行う。



登録番号 好みの番号を入力します。

宛先名 相手の名前を入力します。

インターネット電話番号

通話相手の電話番号を入力します。あとでわかりやすいように、相手の通常の電話番号をそのまま入力しておくとう便利です。

相手sipアドレス

通話相手の電話ユーザ名とホストアドレスを「@」で区切って入力します。
例: rta54i@yamaha.netvolante.jp
電話ユーザ名 ホストアドレス

種別 相手がWindowsMessenger(またはMSN Messenger)のときは[登録メソッド]を選び、相手がネットボランチの時は[無し]を選びます。

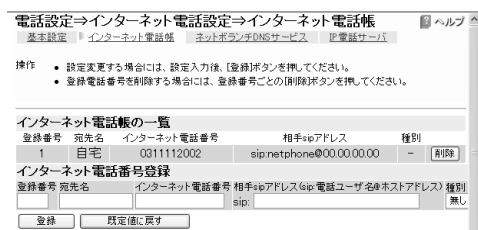
ご注意

インターネットに常時接続している場合でも、割り当てられるグローバルIPアドレスは再接続時または時間によって変更される場合があります。グローバルIPアドレスを直接設定する場合は、相手のアドレスが変わることに再設定が必要となりますので、ご注意ください。

7 設定が終わったら、[登録]をクリックする。

[登録]をクリックしたあとは、画面の指示に従って[追加する]をクリックします。

入力した通話相手先がインターネット電話帳に登録されます。



他の通話相手を続けて登録したいときは、手順6～7を繰り返します。

ネットボランチDNSサービスでネットボランチ電話番号を取得する

ネットボランチDNSサービスを利用すると、通話相手のグローバルIPアドレスが変更されるごとにインターネット電話帳の設定を変更する必要がなくなり、便利です。

ご注意

- ネットボランチ電話番号は、ネットボランチ1台につき1つしか取得できません。
- ネットボランチ電話番号は、それぞれのネットボランチに固有のMACアドレスと組み合わせて登録されています。そのため、すでにネットボランチ電話番号を取得しているネットボランチの設定ファイルを別のネットボランチに適用しても、ネットボランチ電話番号は利用できません。
- ご利用中のプロバイダによっては、ホスト名およびネットボランチ電話番号の登録/更新内容がネットボランチDNSサービスにすぐに反映されないことがあります。あらかじめご了承ください。

ネットボランチDNSサービスの設定をはじめて行う場合は

以下の手順7で「登録」をクリックすると、「ネットボランチDNSサービス利用規約」が表示されます。規約を読んで、同意するときは「[利用規約に同意する]」、同意しないときは「[利用規約に同意しない]」をクリックしてください。規約に同意されない場合は、ネットボランチDNSサービスをご利用いただけません。あらかじめご了承ください。

1 ブロードバンド接続設定を行い、本機を接続状態にする。

プロバイダからグローバルIPアドレスが割り当てられていることを確認してください。グローバルIPアドレスは、「10.x.x.x」、「172.16.x.x～172.31.x.x」、「192.168.x.x」の3つの範囲以外のIPアドレスです。

ご注意

グローバルIPアドレスが割り当てられていない場合は、インターネット電話機能を利用できません。

2 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

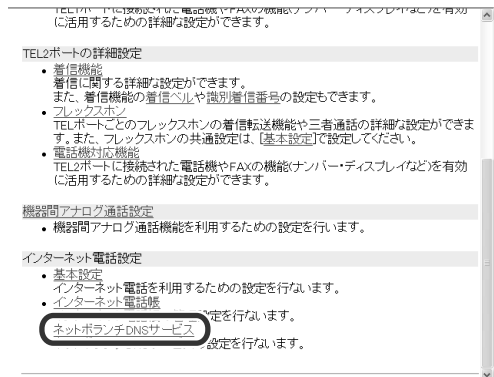
3 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

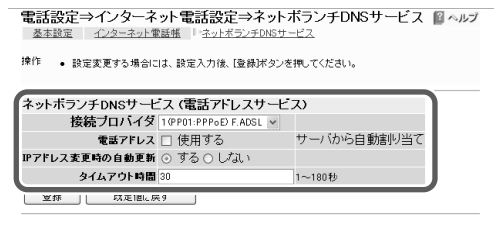
4 画面左側の「電話設定」をクリックする。

RT60wの場合は「かんたん設定」の「電話」をクリックします。

5 [インターネット電話設定]の「ネットボランチDNSサービス」をクリックする。



6 必要な設定を行う。



接続プロバイダ

ネットボランチDNSサービスを使用する接続プロバイダを選びます。端末型プロバイダ接続のみ利用できます。ネットワーク型プロバイダ接続で接続している場合は、ネットボランチDNSサービスは利用できません。

電話アドレス

ネットボランチDNSサービスを利用するときは、チェックを付けます。電話アドレスは自動的に割り当てられます。

IPアドレス変更時の自動更新

グローバルIPアドレスが変わった場合に、自動的にネットボランチDNSサービスにIPアドレス変更情報を通知したいときは、「[する]」を選びます。

タイムアウト時間

ネットボランチDNSサービスのタイムアウト時間を、秒で指定します。

7 設定が終わったら、[登録]をクリックする。
RT60wの場合は[ネットボランチDNSの登録]をクリックします。

「ネットボランチDNSサービス利用規約」が表示されます。

8 規約を読んで、同意するときは[利用規約に同意する]、同意しないときは[利用規約に同意しない]をクリックする。

[利用規約に同意する]をクリックすると、ネットボランチDNSサービスの設定が変更され、電話アドレスの欄にネットボランチDNSサーバから割り当てられたアドレス(ネットボランチ電話番号)が表示されます。

取得できたネットボランチ電話番号をお互い知らせ合うことで、インターネット電話帳へ登録しなくても、インターネット電話をかけあうことができますようになります。

画面の表示例:

電話設定⇒インターネット電話設定⇒ネットボランチDNSサービス

基本設定 インターネット電話帳 ネットボランチDNSサービス

操作

- 設定変更する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

注意事項

- ネットボランチDNSサービスを利用する場合、登録ボタンを押すと指定したプロバイダに接続します。

ネットボランチDNSサービス (電話アドレスサービス)

接続プロバイダ	T-PPPoE F ADSL
ネットボランチ電話番号	21585383
電話アドレス	21585383.tel.netvolante.jp
IPアドレス	210.138.222.136
最終更新日時	2002/04/07 21:05:15
タイムアウト時間	30

登録 既定値に戻す 手動実行 削除

最終更新日時 ネットボランチDNSサーバに更新を通知した最終日時が表示されます。

タイムアウト時間

ネットボランチDNSサービスのタイムアウト時間が表示されます。

ヒント

IPアドレス変更時の自動更新(8ページ)で[しない]を選んでいるときに、プロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスが変更された場合は、この画面下部の[手動実行]をクリックします。

変更されたグローバルIPアドレスが、ネットボランチDNSサーバに通知されます。

接続プロバイダ ネットボランチDNSサービスを使用する接続プロバイダが表示されます。

ネットボランチ電話番号

自分のネットボランチ電話番号が8桁で表示されます。相手先が(03)、(03)に続けてこの番号をダイヤルすると、RTA54iにつないだ電話機にインターネット電話が着信します。

電話アドレス ネットボランチDNSサービスから割り当てられた電話アドレスが表示されます。

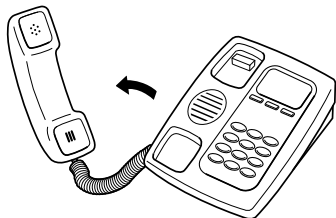
IPアドレス 現在接続中のプロバイダから割り当てられているIPアドレスが表示されます。

通話する

1 受話器を上げる。

発信音が聞こえます。

- ISDNの外線に発信できる場合は:「ツー」と聞こえます。
- ISDNの外線に発信できない場合は:「ツ・ツー」と聞こえます。



2 登録した相手先の電話番号をダイヤルする。

- 「発信時のプレフィックス(識別番号)設定」で識別用の番号を指定していた場合は:

電話番号をダイヤルする前に、識別用の番号(プレフィックス、例:9 (Ⓜ))をダイヤルしてください。

- 相手のネットボランチ電話番号がわかっている場合は:

ネットボランチ電話番号の識別番号(プレフィックス、(Ⓜ)(Ⓜ))に続けて、番号をダイヤルしてください。

呼び出し音が聞こえ、相手が出ると通話できます。

ダイヤル例:

- 識別用の番号を6 (Ⓜ) に設定している場合に、電話番号03-1111-2001にダイヤルする
6、(Ⓜ)、0311112001の順にダイヤルします。
- ネットボランチ電話番号12345678にダイヤルする
(Ⓜ)、(Ⓜ)、12345678の順にダイヤルします。
- 開通試験専用ネットボランチ電話番号にダイヤルする
(Ⓜ)、(Ⓜ)、21574061の順にダイヤルします。

接続できないときにISDN回線を使用して通話する場合は

相手の電話番号を直接ダイヤルしてください(工場出荷状態)。

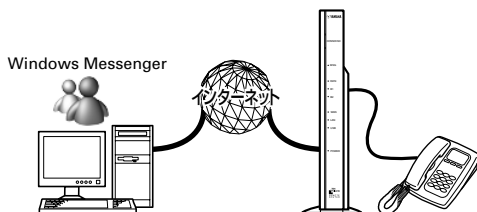
この場合は、通常の電話料金がかかります。

💡 ヒント

ダイヤルした後に (Ⓜ) を押すと、すぐに発信します。また、何も押さなくてもダイヤル桁の間隔設定で設定された時間(工場出荷時は4秒)を過ぎると、自動的に発信します。

Windows Messengerと 音声チャットする

Windows Messenger(またはMSN Messenger)のバージョン4.6以降と本機に接続した電話機で、インターネット電話機能による通話を楽しめます。相手先がインターネット電話機能に対応していなくても、Windows Messengerに対応したパソコンがあれば、インターネット経由で会話できます。



必要な環境を確認する

インターネット電話機能でWindows Messengerと音声チャットするには、以下の環境や設定が必要です。

- バージョン4.6以降のWindows Messenger(またはMSN Messenger)がパソコンにインストールされている。

バージョンを確認するには、Windows Messengerの[ヘルプ]メニューから[バージョン情報]を選びます。バージョンが古い場合は、WindowsUpdateなどを使用してバージョンアップしてください。

- Windows Messenger(またはMSN Messenger)でマイクとスピーカーが使用できるように設定されている。
- Windows Messenger(またはMSN Messenger)がインストールされたWindowsパソコンとネットボランに、それぞれグローバルIPアドレスが割り当てられている。

通話相手のパソコンがグローバルIPアドレスの割り当てられているUPnP対応ルータ経由でインターネットに接続している場合でも、音声チャットを利用できます。

ご注意

以下の場合、Windows MessengerやMSN Messengerによる音声チャットは使用できません。

- CATV接続など、プロバイダから割り当てられるIPアドレスがプライベートIPアドレスの場合
- プロバイダへ接続するために、ルータ型ADSLモデムを介して本機を接続している場合(グローバルIPアドレスが本機のWAN側インタフェースに割り当てられないため)

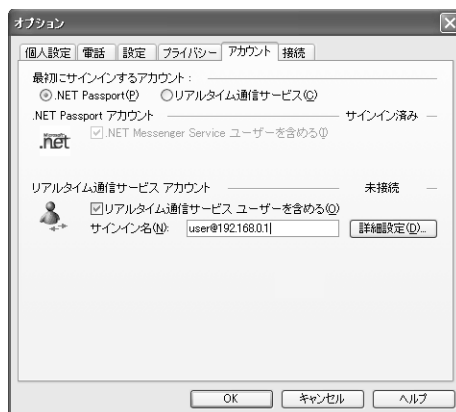
Windows Messengerの設定を変更する

- 1 Windows Messengerを起動する。
- 2 Windows Messengerの[ツール]メニューから[オプション]を選ぶ。



「オプション」画面が表示されます。

- 3 [アカウント]タブをクリックする。
- 4 [リアルタイム通信サービスユーザを含める]にチェックを付けてから、「サインイン名」に「適当なユーザ名@自分PCのIPアドレスまたはホスト名」(例:user@192.168.0.1)を入力する。



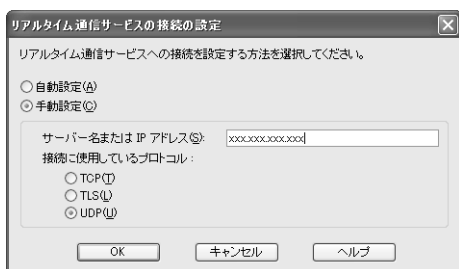
- 5 「サインイン名」の右側にある、「詳細設定」をクリックする。

「リアルタイム通信サービスの接続の設定」画面が表示されます。

次のページにつづく▶

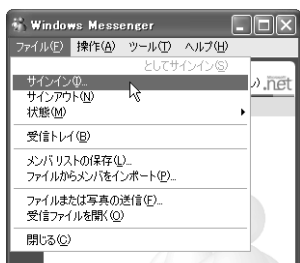
6 [手動接続]を選んでから以下のように設定し、[OK]をクリックする。

- **サーバ名またはIPアドレス:** 通話したいネットボランチのグローバルIPアドレスまたはホスト名を入力する。
- **接続に使用しているプロトコル:** [UDP] を選ぶ。



7 [OK]をクリックして、「オプション」画面を閉じる。

8 [ファイル]メニューから[サインイン]を選び、Windows Messengerにサインインし直す。



これでWindows Messenger(またはMSN Messenger)と本機に接続した電話機で通話できるようになります。

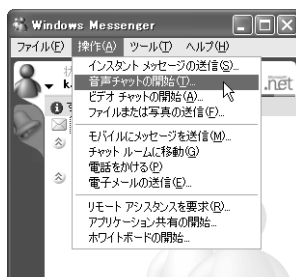
Windows Messengerからネットボランチへ発信する

ご注意

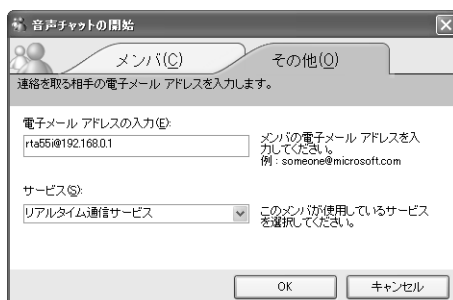
Windows Messengerからネットボランチに発信するには、相手先のネットボランチのグローバルIPアドレスに合わせて、発信する相手ごとにサーバの設定を変更する必要があります。詳しくは、「[Windows Messengerの設定を変更する]」(前ページ)をご覧ください。

1 Windows Messengerを起動する。

2 [操作]メニューから[音声チャットの開始]を選ぶ。



3 [その他]タブをクリックしてから、「電子メールアドレスの入力」に相手先のネットボランチのsipアドレスを入力し、「サービス」から[リアルタイム通信サービス]を選ぶ。



ヒント

sipアドレスとは、「電話ユーザ名@ネットボランチのグローバルIPアドレスまたはホストアドレス」です。電話ユーザ名は、相手先のネットボランチのインターネット電話機能で各TELポートに設定されているインターネット電話ユーザ名を入力してください。初期設定では、機種名になっています(例:user@192.168.0.1)。

4 [OK]をクリックする。

相手先に発信します。

ネットボランチからWindows Messengerへ発信する

ネットボランチからは、[リアルタイム通信サービスユーザを含める]設定になっているWindows Messengerすべてに対して発信できます。相手先によって設定を変更する必要はありません。

また、相手先がWindows Messengerの[リアルタイム通信サービス]のサーバを発信元のネットボランチに設定している必要はありません。

1 インターネット電話帳に電話番号と相手のリアルタイム通信サービスに使用するユーザ名を登録する。

詳しくは「Windows Messengerの設定を変更する」(11ページ)の手順4、および「通話相手を登録する」(6ページ)をご覧ください。

2 通常のインターネット電話機能と同様に、識別番号(プレフィックス)に続けて、番号をダイヤルする。

Windows Messengerとの音声チャットを切断する

ネットボランチ側で通話を止める

電話の受話器を置きます。

Windows Messenger側で通話を止める

[音声チャットの中止]をクリックするか、会話画面を閉じます。

音声チャットが正しく動作しないときは

音声チャットを開始できない場合は

Windows Messengerの通信上の仕様により、音声チャットのための接続に時間がかかることがあります。

また、接続に時間がかかりすぎると、接続されずにそのまま接続処理を中止してしまう場合があります。手順2から操作し直してください。

これまで接続できていた相手と接続できなくなった場合は

Windows Messengerの終了／起動を繰り返したり、ルータの再起動や回線の切断などによってパソコンとルータでUPnP機能の情報が異なると、正常に接続できなくなることがあります。

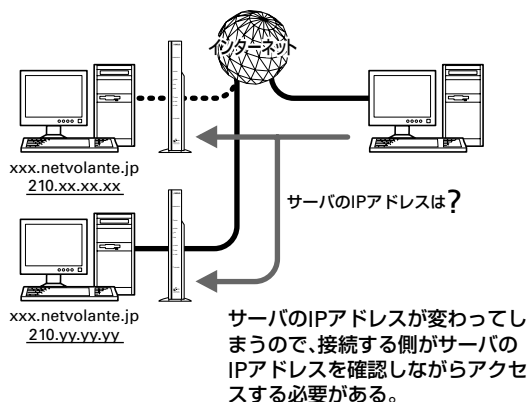
この場合は、回線を接続した状態でいったんWindows Messengerをサインアウトしてから、Windows Messengerを再起動します。それでも接続できない場合は、パソコンを再起動してください。

ネットボランチ DNS サービスを利用する

ネットボランチDNSサービスとは？

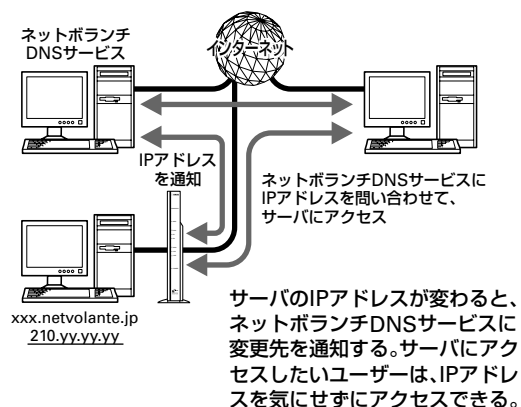
サーバを構築してホームページを公開したり、作業用のファイルをインターネット経由で共有したりするためには、相手のグローバルIPアドレスがわかっている必要があります。

しかし、インターネットに常時接続している場合でも、割り当てられるグローバルIPアドレスは再接続時または時間によって変更される場合があります。そのため、グローバルIPアドレスが固定で割り当てられない接続サービスを利用していると、サーバを構築して公開することは困難でした。



ネットボランチDNSサービスを利用すると

グローバルIPアドレスが変更されるごとに(または一定時間おきに)IPアドレスはサーバへ通知されるため、固定のホスト名を持つことができるようになります。したがって、固定IPアドレスサービスを契約していなくても自宅サーバで独自ドメインを使った各種サーバを運用したり、PPTPを利用してVPNを構築して、外部とデータをやり取りしたりできるようになります。



ご注意

- ネットボランチDNSサービス機能をお使いになる場合、プロバイダからグローバルIPアドレスが割り当てられていることを確認してください。グローバルIPアドレスは、「10.X.X.X」、「172.16.X.X～172.31.X.X」、「192.168.X.X」の3つの範囲以外のIPアドレスです。

ネットランチDNSサービスでホストアドレスを取得する

ネットランチDNSサービスを利用すると、グローバルIPアドレスが変更されるごとに設定を変更する必要がなくなり、便利です。

ご注意

ホストアドレスは、ネットランチ1台につき1つしか取得できません。

ネットランチDNSサービスの設定をはじめて行う場合は

以下の手順7で「登録」をクリックすると、「ネットランチDNSサービス利用規約」が表示されます。規約を読んで、同意するときは「利用規約に同意する」、同意しないときは「利用規約に同意しない」をクリックしてください。規約に同意されない場合は、ネットランチDNSサービスをご利用いただけません。あらかじめご了承ください。

1 ブロードバンド接続設定を行い、本機を接続状態にする。

プロバイダからグローバルIPアドレスが割り当てられていることを確認してください。グローバルIPアドレスは、「10.x.x.x」、「172.16.x.x～172.31.x.x」、「192.168.x.x」の3つの範囲以外のIPアドレスです。

2 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

3 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

4 画面左側の[接続設定]をクリックする。

RT60wの場合は[かんたん設定]をクリックします。

5 [プロバイダ接続管理]をクリックする。

RT60wの場合は[プロバイダ]をクリックします。

6 必要な設定を行う。

自動接続先 1 (PPPoE PPPoE F.ADSL)
手動接続方式 手動接続時に接続先を切り換えない
○ 複数のプロバイダに同時接続する
同時接続方式 メール専用のプロバイダ選択
プロバイダへの接続方式の登録(同時接続設定) 既定値に戻す

ネットランチDNSサービス (ホストアドレスサービス)
接続プロバイダ 1 (PPPoE PPPoE F.ADSL)
ホスト名 文字以内
IPアドレス変更時の自動更新 ○ する ○ しない
タイムアウト時間 30 180秒

現在のPPPoE接続状態 (WANポート10BASE-T Half Duplex)
セッション 通信内容 相手番号 通信時間 IPアドレス DNSサーバアドレス
セッション1 通信中 F.ADSL 8時間28分15秒 210.130.0.1
更新

現在のISDN回線接続状態
ISDN回線は、接続していません。
更新

接続プロバイダ

ネットランチDNSサービスを使用する接続プロバイダを選びます。端末型プロバイダ接続のみ利用できます。ネットワーク型プロバイダ接続で接続している場合は、ネットランチDNSサービスは利用できません。

ホスト名

希望のホスト名を入力します。ホスト名に使用できるのは、英数字と - (ハイフン) だけです。

ご注意

希望のホスト名が取得できないことがあります。

IPアドレス変更時の自動更新

グローバルIPアドレスが変わった場合に自動的にネットランチDNSサーバにIPアドレス変更情報を通知したいときは、[する]を選びます。

タイムアウト時間

ネットランチDNSサービスのタイムアウト時間を秒で指定します。

7 設定が終わったら、[登録]をクリックする。

RT60wの場合は[ネットランチDNSの登録]をクリックします。

「ネットランチDNSサービス利用規約」が表示されます。

次のページにつづく▶

8 規約を読んで、同意するときは[利用規約に同意する]、同意しないときは[利用規約に同意しない]をクリックする。

[利用規約に同意する]をクリックすると、ネットボランチDNSサービスのダイナミックDNSサーバからホストアドレスが割り当てられます。ホストアドレスは「(指定したホスト名).xxx.netvolante.jp」という形で割り当てられます。「xxx」は、サーバで任意に生成された文字列です。

ホストアドレスを取得できない場合は

- 契約プロバイダによっては、登録／更新してすぐに名前解決ができない場合があります。しばらく時間をおいてから再度試してみてください。
- プロバイダから割り当てられているIPアドレスがグローバルIPアドレスかどうかを確認してください。
- プロバイダの設定で指定したDNSサーバのIPアドレスが正しいかどうか、確認してください。
- ネットボランチDNSサーバのIPアドレスを直接指定してみると問題が解決する場合があります。「かんたん設定ページ」の[システム管理]－[コマンド設定]画面の[コマンド入力]欄に半角英数字で「netvolante-dns server 211.133.249.145」と入力してから、[入力]をクリックしてください。

ネットボランチDNSサービス 利用規約

ネットボランチDNSサービスを利用するユーザは、以下の利用規約に同意して頂く必要があります。

1. 弊社は本サービスに関連して発生したいかなる損害について、一切の責任を負いません。本サービスの利用は、ユーザ自身の責任で行ってください。
2. 弊社は本サービスについて、事前に通ずることなくいつでもサービスの条件および内容を変更、停止、中止できるものとします。
3. ユーザは法令に違反する行為、権利侵害、公序良俗に反する行為などを行わないものとします。弊社がユーザとして不適当と判断した場合や、長期にわたりサービスの利用が見られない場合は、登録データ等の変更、削除を行うことがあります。
4. 弊社は事前に通ずることなく、いつでも本利用規約を変更できるものとします。

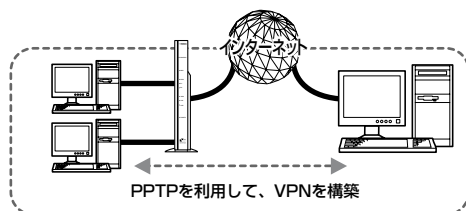
ご注意

- ネットボランチDNSサービスでは、登録ホスト名に関するの正引きはできますが、逆引きはできません。
- ネットボランチDNSサービスに利用することにより、インターネット上の不特定多数ユーザからアクセスされる可能性があります。不正アクセスなどによりルータやパソコンに損害を受けるだけでなく、そのパソコンを経由して他人に損害を与える可能性もあります。ネットボランチDNSサービスのご利用にあたっては、ユーザの自己責任にて十分なセキュリティ対策を行ってください。
- ご利用中のプロバイダによっては、ホスト名およびネットボランチ電話番号の登録／更新内容がネットボランチDNSサービスにすぐに反映されないことがあります。あらかじめご了承ください。

PPTP を利用してリモートアクセスする

RTA55i、RTW65iとRTW65b(以下本機)はブロードバンド経由のPPTP(Point to Point Tunneling Protocol)に対応しているため、ブロードバンド(PPPoEまたはCATV)の回線に接続していれば、外出先からでもVPN(仮想プライベートネットワーク)としてLAN上のパソコンへアクセスできます。

リモートアクセスをするときは、本機にリモートアクセスユーザのユーザIDやパスワードを登録し、リモートのパソコンにはダイヤルアップ接続の設定を行います。



ご注意

- ブロードバンド接続した状態でPPTPのトンネル設定を行うため、PPTPを利用したリモートアクセスの設定前にブロードバンド接続の設定が必要です。
- PPTP暗号化通信機能をお使いになる場合、プロバイダからグローバルIPアドレスが割り当てられていることを確認してください。グローバルIPアドレスは、「10.X.X.X」、「172.16.X.X～172.31.X.X」、「192.168.X.X」の3つの範囲以外のIPアドレスです。
- リモートアクセスを利用するときは、データを保全するために十分なセキュリティ設定を行ってください。セキュリティ設定が不十分の場合は、双方のLANに接続されたパソコンが不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などにあう可能性があります。
- 本機のリモートアクセス機能は、WindowsのNetBEUIプロトコルおよびMacOSのAppleTalkプロトコルには対応していません。
- Windowsでファイル共有をする場合は、NetBIOS over TCP/IPプロトコルを使用するか、またはWindowsNTサーバを用意する必要があります。
- MacOS8.1以降のMacintoshでファイル共有する場合はAppleShare IPサーバが必要です。なお、MacOS9の場合は、「ファイル共有」コントロールパネルで[TCP/IP接続でファイル共有を可能にする]にチェックを付けることで、AppleShare IPサーバなしでファイル共有できます。

本機で利用できるPPTPについて

- PPTPのデータ暗号化をサポートしています。暗号化アルゴリズムとしてRC4(鍵長40bitまたは128bit)を使います。
- MS-CHAP、MS-CHAPv2によるユーザ/パスワード認証をサポートしています。
- MPPEで暗号化方式が成立しなかった場合に、着信拒否するか否かを設定できます(アクセス制御)。
- 圧縮には対応していません。PPTPクライアント側のPPPの設定で、[ソフトウェアによる圧縮を行う]のチェックを外してください。
- PPTPでは、トンネル制御にTCPのポート1723をデータ通信にGREのプロトコル番号47を使います。ファイアウォールの内側にPPTPサーバを設置したり、NATとリモートアクセスVPNサーバを併用する場合は、TCPのポート番号1723とGREのプロトコル番号47を通すようにしてください。詳しくはネットワーク管理者にご相談ください。
- 切断タイマが通信状態を監視しているため、PPTPトンネル中をデータが一定時間通過しない場合は、PPTPのセッションは切断されます。
- PPPフォワーディング機能はサポートしていません。

必要な設定

リモートアクセスするときは、ルータやパソコンに次のような設定が必要です。

ルータの設定

- 接続相手を登録する(18ページ)
- ブロードバンド接続の設定
 - 本機のWAN側にグローバルIPアドレスが割り当てられている必要があります。
 - 動的にWAN側アドレスが割り当てられる端末型接続の場合は、ネットボランチDNSサービス(14ページ)を利用して、使用できるホスト名を所得する必要があります。
 - ネットワーク型接続の場合は、WAN側に割り当てられるグローバルIPアドレスを確認してください。

LAN内サーバまたはパソコンに必要な設定

- 固定プライベートIPアドレスの設定(20ページ)
- ファイルサーバソフトの設定とユーザ登録(20ページ)

リモートアクセスするパソコンの設定

ダイヤルアップ接続設定(20ページ)

接続相手を登録する

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

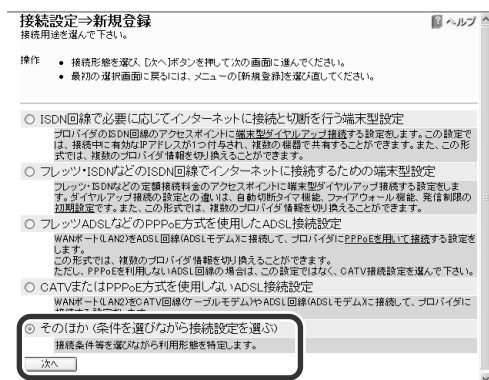
2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

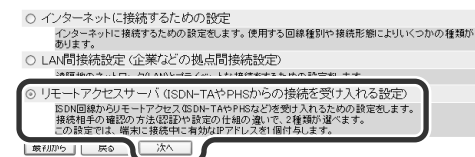
3 画面左側の[接続設定]をクリックする。

4 [新規登録]をクリックする。

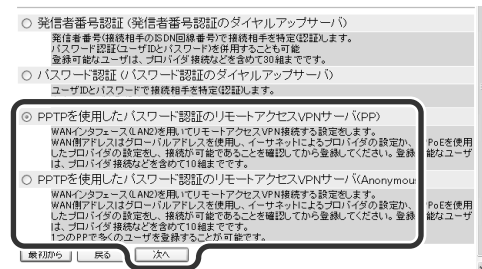
5 [そのほか]を選んでから、[次へ]をクリックする。



6 [リモートアクセスサーバ(ISDN-TAやPHSからの接続を受け入れる設定)]を選んでから、[次へ]をクリックする。



7 [PPTPを使用したパスワード認証のリモートアクセスVPNサーバ]の使用したい認証方法を選んでから、[次へ]をクリックする。

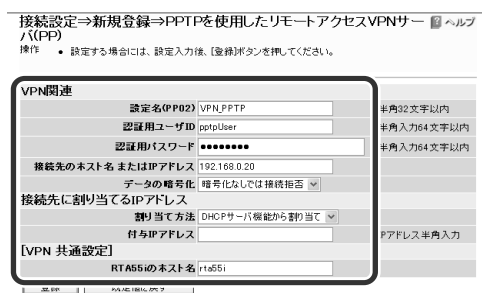


PP 指定されたホスト名またはIPアドレスのみを接続先として、ユーザIDとパスワードで認証を行います。

Anonymous 接続先の制限は行わずに、ユーザIDとパスワードで認証を行います。

8 必要な設定を行う。

手順7で[PPTP]を選んだ場合



設定名(PPxx)

接続先の名前を入力します。

認証用ユーザID

ユーザIDを入力します。

認証用パスワード

パスワードを入力します。

接続先のホスト名またはIPアドレス

PPTPで接続するクライアントPCのIPアドレスまたはホスト名を入力します。

データの暗号化

暗号化なしで接続の要求があったときに、接続を許可するかどうかを選びます。

割り当て方法

接続先にIPアドレスをどのように割り当てるかを選びます。接続先に固定IPアドレスを指定する場合は、[固定割り当て]を選んでから、「付与IPアドレス」欄にアドレスを入力します。

ご注意

- 登録できるユーザ数は最大4つです。PPTPのトンネル接続は、Anonymous で利用しているものも含めて同時に4つまでとなります。

手順7で[Anonymous]を選んだ場合

接続設定⇒新規登録⇒PPTPを使用したリモートアクセスVPNサーバ(Anonymous)
操作 ● 設定する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

VPN関連	
認証用ユーザID	pppUser
認証用パスワード	*****
[VPN 共通設定]	
RTASSの本名	rtass
接続先に割り当てるIPアドレス	
割り当て方法	DHCPサーバ機能から割り当て
付与IPアドレス1	レス半角入力
付与IPアドレス2	レス半角入力
付与IPアドレス3	レス半角入力
付与IPアドレス4	レス半角入力

登録 戻る 戻る(1回に1回)

認証用ユーザID

ユーザIDを入力します。

認証用パスワード

パスワードを入力します。

割り当て方法

接続先にIPアドレスをどのように割り当てるかを選びます。接続先に固定IPアドレスを指定する場合は、[固定割り当て]を選んでから、「付与IPアドレス」欄にアドレスを入力します。

ご注意

- 登録できるユーザ数に制限はありませんが、実際のPPTPのトンネル接続は同時に4つまでとなります。

9 画面下の[登録]をクリックする。

接続相手が登録され、「接続設定」画面に戻ります。

LAN内のサーバやパソコンを設定する

リモートアクセスするには、LAN内のサーバやパソコンにTCP/IPプロトコルでアクセスできるようにするための設定が必要です。

ご注意

- 本機のリモートアクセス機能は、WindowsのNetBEUIプロトコルおよびMacOSのAppleTalkプロトコルには対応していません。
- Windowsでファイル共有をする場合は、NetBIOS over TCP/IPプロトコルを使用するか、またはWindowsNTサーバを用意する必要があります。
- MacOS8.1以降のMacintoshでファイル共有する場合はAppleShare IPサーバが必要です。なお、MacOS9の場合は、「ファイル共有」コントロールパネルで[TCP/IP接続でファイル共有を可能にする]にチェックを付けることで、AppleShare IPサーバなしでファイル共有できます。

サーバやパソコンのIP アドレスを設定する

お互いのLAN上のサーバまたはパソコンで外部からのアクセスを許可するパソコンには、固定プライベートIPアドレスを設定します。

ファイルサーバソフトの設定を変更する

公開するサーバまたはパソコンにファイルサーバソフトやネットワーク共有を設定して、公開するフォルダやユーザID、パスワードを設定します。

リモートアクセスするパソコンの設定を変更する

Windows 98SE/Meの場合

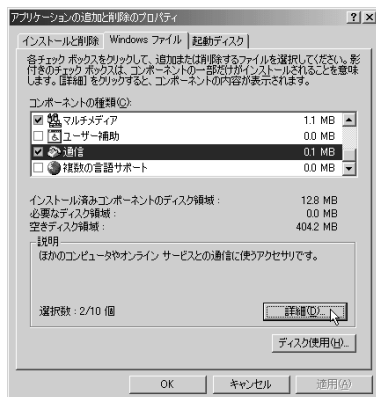
仮想プライベートネットワーク (VPN) をインストールする

PPTPを利用してリモートアクセスするには、Windowsの仮想プライベートネットワークが必要です。インストールされていない場合は、以下の手順でWindowsのCD-ROM(OSインストールCD-ROM)からインストールします。作業を始める前にシステムCD-ROMをご用意ください。

- 1 [コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を開き、[Windowsファイル]タブをクリックする。

インストール済みのファイルがリストに表示されます。

- 2 [通信]をクリックして選んでから、[詳細]をクリックする。



- 3 [仮想プライベートネットワーク]、[ダイヤルアップネットワーク]にチェックが付いていることを確認してから、[OK]をクリックする。

上記以外の項目にチェックがついていても、問題はありません。



- 4 [OK]をクリックする。

追加機能がインストールされます。

CD-ROMを要求するメッセージが表示された場合は、WindowsのCD-ROMをドライブにセットしてください。

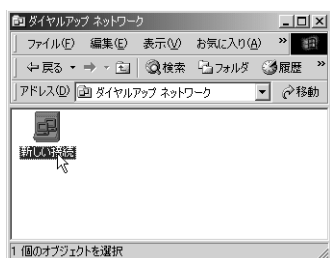
- 5 インストールが終わったら、パソコンを再起動する

再起動後に、仮想プライベートネットワーク機能が使えるようになります。

パソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更する

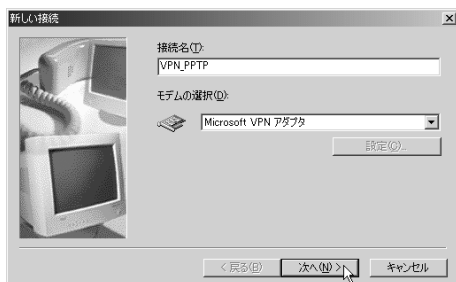
PPTPを利用してリモートアクセスするには、ダイヤルアップネットワークにリモートアクセスするためのアイコンを作成します。

- 1 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]をダブルクリックしてから、[新しい接続]アイコンをダブルクリックする。



[新しい接続] アイコンがない場合には「ダイヤルアップネットワークへようこそ」の画面が表示されるので、[次へ]をクリックします。

- 2 「VPN_PPTP」と入力してから、[モデムの選択]から[Microsoft VPN Adaptor]を選び、[次へ]をクリックする。

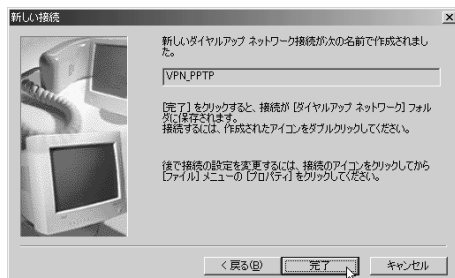


- 3 ネットボランチDNSサービスで取得したホストアドレスまたはRTW65iのWAN側IPアドレスを入力してから、[次へ]をクリックする。

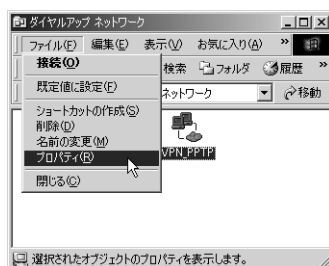


- 4 接続名を確認してから、[完了]をクリックする。

「ダイヤルアップ ネットワーク」フォルダ内に登録したリモート接続のアイコンが表示されます。



- 5 [VPN_PPTP]アイコンをクリックして選んでから、[ファイル]メニューから[プロパティ]を選ぶ。



- 6 [ネットワーク]タブをクリックする。

Windows 98SEの場合は[サーバーの種類]タブをクリックします。

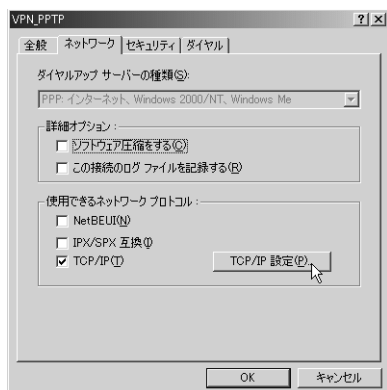


次のページにつづく▶

7 以下のように設定する。

Windows Meの場合

- ソフトウェア圧縮をする: チェックを外す。
- NetBEUI、IPX/SPX 互換: チェックを外す。
- TCP/IP: チェックを付ける。



Windows 98SEの場合

- ネットワークへのログオン: チェックを付ける。
- ソフトウェア圧縮をする: チェックを外す。
- 暗号化パスワードを使う: チェックを付ける。
- データの暗号化を使用する: 本機で [暗号化なしでは接続拒否] を選んだ場合は、チェックを付ける。本機で [暗号化なしでも接続許可] を選んだ場合は、チェックを外す。
- NetBEUI、IPX/SPX 互換: チェックを外す。
- TCP/IP: チェックを付ける。



Windows 98SEの設定は、これで終了です。

8 Windows Meの場合は、[セキュリティ]タブをクリックして以下のように設定を変更してから、[OK]をクリックする。

- ネットワークへのログイン: チェックを付ける。
- 暗号化パスワードを使う: チェックを付ける。
- データの暗号化が必要: 本機で [暗号化なしでは接続拒否] を選んだ場合は、チェックを付ける。本機で [暗号化なしでも接続許可] を選んだ場合は、チェックを外す。



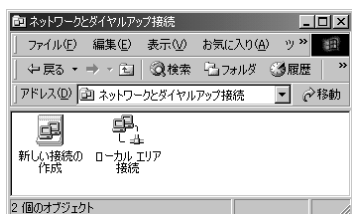
これで、PPTPを利用したリモートアクセス接続の設定が完了しました。

Windows 2000の場合

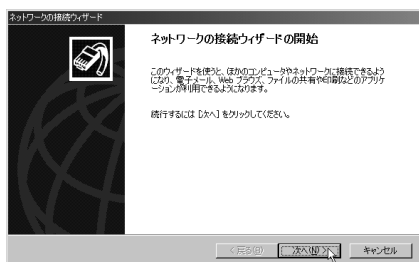
- 1 [コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]をダブルクリックする。



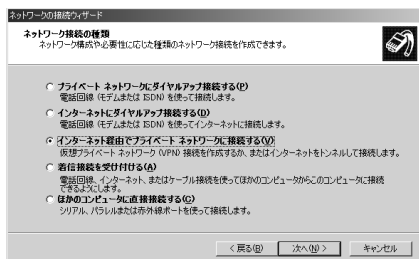
- 2 [新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックする。



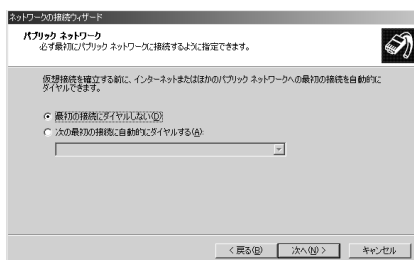
- 3 [次へ]をクリックする。



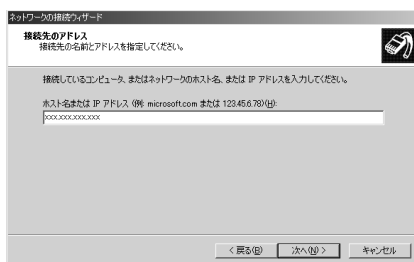
- 4 [インターネット経由でプライベートネットワークに接続する]を選んでから、[次へ]をクリックする。



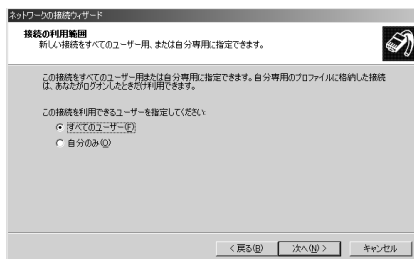
- 5 [最初の接続にダイヤルしない]または[次の最初の接続に自動的にダイヤルする]を選んでから、[次へ]をクリックする。



- 6 ネットボランチDNSサービスで取得したホストアドレスまたは本機のWAN側IPアドレスを入力してから、[次へ]をクリックする。

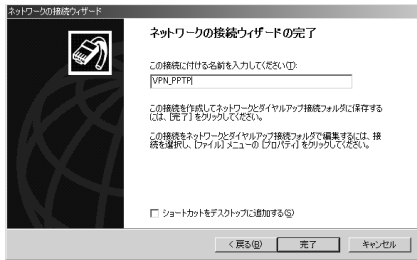


- 7 [すべてのユーザー]または[自分のみ]を選んでから、[次へ]をクリックする。



次のページにつづく▶

8 [接続名]に「VPN_PPTP」と入力してから、[完了]をクリックする。



これで、リモートアクセス接続の設定が完了しました。

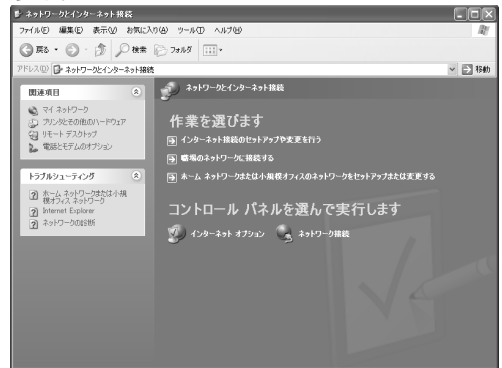
Windows XPの場合

Windows XPの場合は、ネットワーク機能の設定とダイヤルアップネットワークの設定を行います。

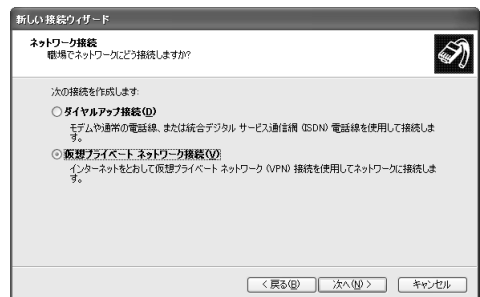
1 [コントロールパネル]の[ネットワークとインターネット接続]をクリックする。



2 [職場のネットワークに接続する]をクリックする。



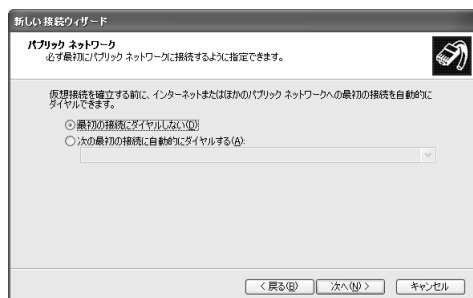
3 [仮想プライベート ネットワーク接続]を選んで、[次へ]をクリックする。



4 [会社名]に「VPN_PPTP」と入力してから、 [次へ]をクリックする。



5 [最初の接続にダイヤルしない]または[次の最初の接続に自動的にダイヤルする]を選んでから、 [次へ]をクリックする。



6 ネットボランチDNSサービスで取得したホスト アドレスまたはRTA55iのWAN側IPアドレ スを入力してから、[次へ]をクリックする。



7 [完了]をクリックする。



これで、リモートアクセス接続の設定が完了しました。

本機へアクセスする

Windows 98SE/Meの場合

- 1 ブロードバンド接続設定を行い、本機を接続状態にする。
- 2 [マイコンピュータ]の[ダイヤルアップ ネットワーク]を開き、[VPN_PPTP]アイコンをダブルクリックする。



- 3 [接続]をクリックする。



本機へ接続すると、接続名のウィンドウが表示され、接続速度と接続時間が表示されます。

ご注意

[パスワードの保存]にチェックを付けると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

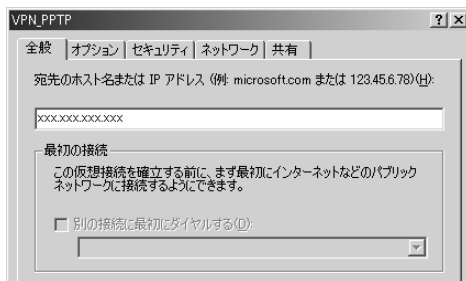
- 4 目的に応じたソフトウェアを使って、必要な作業を行う。
- 5 接続を解除するときは、[切断]をクリックする。

Windows 2000/XPの場合

- 1 ブロードバンド接続設定を行い、本機を接続状態にする。
- 2 [VPN_PPTP]アイコンをダブルクリックして、接続画面を表示する。
 - Windows2000の場合:[コントロールパネル]の[ネットワークとダイヤルアップ接続]を開き、[VPN_PPTP]アイコンをダブルクリックする。
 - WindowsXPの場合:24ページの手順1を行ってから、[ネットワーク接続]をクリックし、[VPN_PPTP]アイコンをダブルクリックする。
- 3 [ユーザー名]と[パスワード]欄に、18～19ページの手順8で設定した認証用ユーザIDとパスワードを入力する。



- 4 [プロパティ]をクリックする。
- 5 [全般]タブをクリックしてから、[宛先のホスト名またはIPアドレス]欄に、ネットボランチDNSサービスで取得したホストアドレスまたは本機のWAN側IPアドレスを入力する。

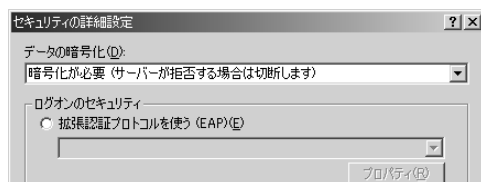


- 6 [セキュリティ]タブをクリックしてから、セキュリティオプションの[詳細(カスタム設定)]を選び、[設定]をクリックする。



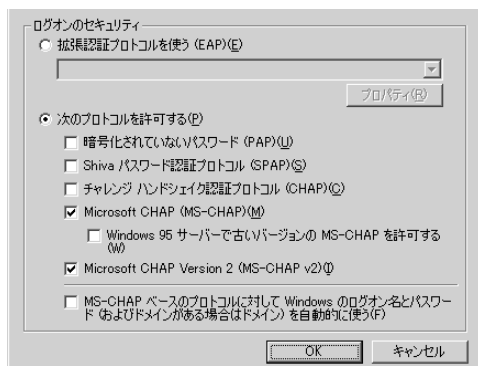
- 7 18ページの手順8で設定に合わせて、暗号形式を選ぶ。

- 本機で[暗号化なしでは接続拒否]を選んだ場合: [暗号化が必要(サーバーが拒否する場合は切断します)]を選びます。
- 本機で[暗号化なしでも接続許可]を選んだ場合: 希望する暗号化のレベルを選びます。

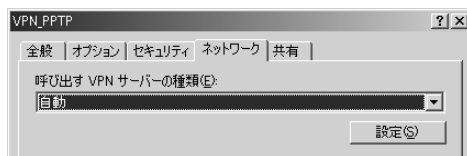


- 8 [ログオンのセキュリティ]から[次のプロトコルを許可する]を選び、以下のように設定してから[OK]をクリックする。

- [暗号化されていないパスワード(PAP):チェックを外す。
- Shivaパスワード認証プロトコル(SPAP):チェックを外す。
- チャレンジハンドシェイク認証プロトコル(CHAP):チェックを外す。
- Microsoft CHAP (MS-CHAP): チェックを付ける。
- Windows 95サーバーで古いバージョンのMS-CHAPを許可する:チェックを外す。
- Microsoft CHAP Version 2 (MS-CHAP v2): チェックを付ける。
- MS-CHAPベースのプロトコルに対してWindowsのログオン名とパスワード(およびドメインがある場合はドメイン)を自動的に使う:チェックを外す。



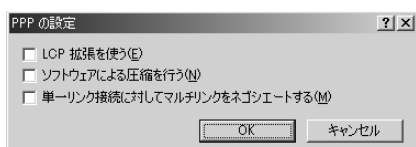
- 9 [ネットワーク]タブをクリックしてから、[呼び出すVPNサーバーの種類](Windows 2000の場合)または[VPNの種類](Windows XPの場合)で「自動」を選び、[設定]をクリックする。



次のページにつづく▶

10 以下のように設定してから、[OK]をクリックする。

- LCP 拡張を使う: チェックを外す。
- ソフトウェアによる圧縮を行う: チェックを外す。
- 単一リンク接続に対してマルチリンクをネゴシエートする: チェックを外す。



11 [VPN_PPTPのプロパティ]画面の[OK]をクリックして、[VPN_PPTPのプロパティ]画面を閉じる。

12 [接続]をクリックする。



本機へのダイヤルアップをはじめます。
接続すると、「ダイヤル アップネットワーク(プロバイダ名)」画面が表示され、接続速度と接続時間が表示されます。

ご注意

[パスワードの保存]にチェックを付けると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

13 目的に応じたソフトウェアを使って、LAN内のパソコンのIPアドレスを指定して作業を行う。

14 接続を解除するときは、[切断]をクリックする。

本機との接続が切れます。

MacOS X(10.2以降)の場合

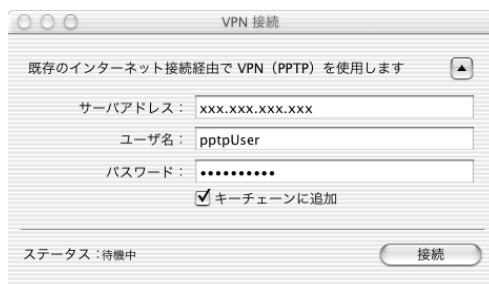
1 ブロードバンド接続設定を行い、本機を接続状態にする。

2 [移動]メニューの[アプリケーション]を開き、[インターネット接続]アイコンをダブルクリックする。



3 ファイルメニューから[新規VPN接続ウィンドウ]を選ぶ。

4 [サーバアドレス]欄に、ネットボランチDNSサービスで取得したホストアドレスまたはRTA55iのWAN側IPアドレスを入力し、[ユーザ名]と[パスワード]欄に、15ページの手順8で設定した認証用ユーザIDとパスワードを入力する。



5 [接続]をクリックする。

本機へ接続すると、接続時間が表示されます。

ご注意

[キーチェーンに追加]にチェックを付けると、次回からパスワードの入力が不要になります。ただし、他の人に使われたくないときは、チェックしないでください。チェックしない場合は、接続のたびにパスワード入力が必要になります。

6 目的に応じたソフトウェアを使って、必要な作業を行う。

7 接続を解除するときは、[切断]をクリックする。

PPTPを利用してVPNを構築する (PPTP-LAN 間接続)

RTA55i、RTW65iとRTW65b(以下本機)が接続されているLANどうしをインターネット経由でPPPoEまたはCATV接続して、仮想プライベートネットワーク(VPN)を構築できます。PPTPを利用して接続するため、インターネット経由の接続でもセキュリティを保つことができます。



ADSLなどの通常のブロードバンド回線をそのまま利用してVPNを構築できるため、専用線を導入する場合と比較して、低コストでVPNを実現できます。なお、本機のLAN間接続機能は、TCP/IPプロトコルのサーバソフトウェアに対応しています。

ご注意

- ブロードバンド接続した状態でPPTPのトンネル設定を行うため、PPTP-LAN間接続の設定前にブロードバンド接続の設定が必要です。
- PPTP暗号化通信機能をお使いになる場合、プロバイダからグローバルIPアドレスが割り当てられていることを確認してください。グローバルIPアドレスは、「10.X.X.X」、「172.16.X.X〜172.31.X.X」、「192.168.X.X」の3つの範囲以外のIPアドレスです。
- 同じネットワークアドレスを設定しているLANどうしのLAN間接続はできません。あらかじめ、どちらかのネットワークアドレスを変更してください。
- LAN間接続を利用するときは、データを保全するために十分なセキュリティ設定を行ってください。セキュリティ設定が不十分の場合は、双方のLANに接続されたパソコンが不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊の被害を受ける可能性があります。
- 本機のLAN間接続は、WindowsのNetBEUIプロトコルおよびMacOSのAppleTalkプロトコルには対応していません。
- Windowsでファイル共有をする場合は、NetBIOS over TCP/IPプロトコルを使用するか、またはWindowsNTサーバを用意する必要があります。
- MacOS8.1以降のMacintoshでファイル共有する場合はAppleShare IPサーバが必要です。なお、MacOS9の場合は、「ファイル共有」コントロールパネルで[TCP/IP接続でファイル共有を可能にする]にチェックを付けることで、AppleShare IPサーバなしでファイル共有できます。

PPTPを使用できるように設定する

本機をPPTPサーバ／PPTPクライアントとして動作させるために必要な設定を行います。接続する側のLANに設置したネットボランチはPPTPクライアント、接続される側のLANに設置したネットボランチはPPTPサーバとして設定してください。

1 ブロードバンド接続設定を行い、本機を接続状態にする。

プロバイダからグローバルIPアドレスが割り当てられていることを確認してください。グローバルIPアドレスは、「10.x.x.x」、「172.16.x.x〜172.31.x.x」、「192.168.x.x」の3つの範囲以外のIPアドレスです。

2 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「<http://setup.netvolante.jp/>」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

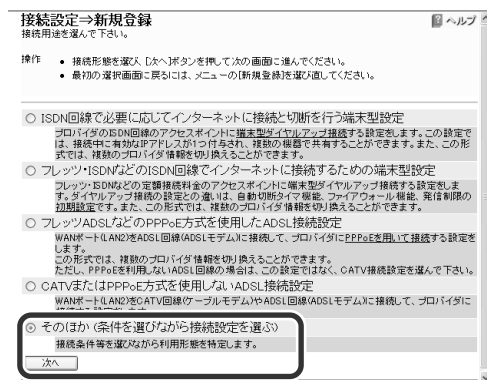
3 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

4 画面左側の[接続設定]をクリックする。

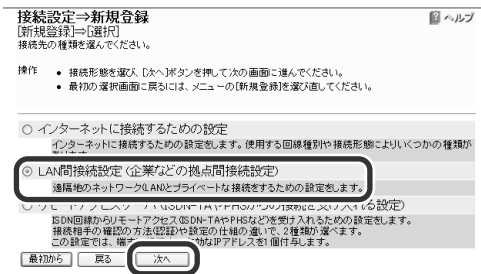
5 [新規登録]をクリックする。

6 [そのほか]を選んでから、[次へ]をクリックする。

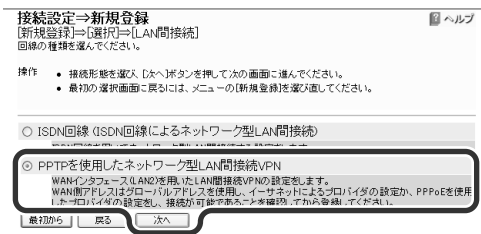


次のページにつづく▶

7 [LAN間接続設定(企業などの拠点間接続設定)]を選んでから、[次へ]をクリックする。



8 [PPTPを使用したネットワーク型LAN間接続VPN]を選んでから、[次へ]をクリックする。



9 必要な設定を行う。



ネットワークアドレス(経路情報)

接続先のIPアドレスを入力します。

サーバ/クライアント

本機をPPTPサーバとして利用する場合は[サーバ]、PPTPクライアントとして利用する場合は[クライアント]を選びます。

設定名

任意の設定名を入力します。

認証用ユーザID

PPTPで接続する際に使用するユーザ名を入力します。

認証用パスワード

PPTPで接続する際に使用するパスワードを入力します。

接続先のホスト名またはIPアドレス

PPTPで接続する相手先機器のホスト名またはIPアドレスを入力します。

キーブアライブ

相手に定期的にパケットを送信し、相手から応答がなくなったら自分から切断するように設定するときは、チェックを付けます。

ご注意

- PPTPのトンネルは、最大で4個まで登録できます。

10 画面下の[登録]をクリックする。

PPTPの設定内容が登録されます。本機をPPTPサーバとして設定した場合は、PPTPサーバとして動作を始めます。

PPTPで接続する

PPTPサーバ／PPTPクライアントに接続します。

ご注意

- PPTPサーバに接続するには、以下の操作を行うネットボランチがPPTPクライアントとして設定されている必要があります。
- PPTPクライアントに接続するには、以下の操作を行うネットボランチがPPTPサーバとして設定されている必要があります。

1 ブロードバンド接続設定を行い、本機を接続状態にする。

2 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

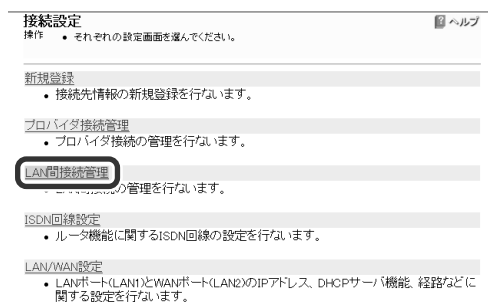
「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

3 「パスワード」入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

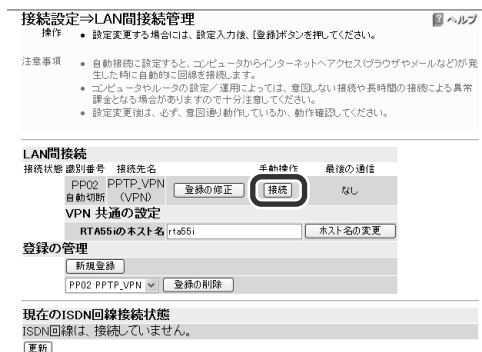
「トップ」画面が表示されます。

4 画面左側の[接続設定]をクリックする。

5 [LAN間接続管理]をクリックする。



6 [接続]をクリックする。



登録したPPTPサーバに接続して、PPTP-LAN間接続できるようになります。

PPTP-LAN間接続を切断するには

「接続設定」－「LAN間接続管理」画面で、[切断]をクリックします。

ご注意

- [切断]をクリックしてもPPTPのセッションが終了するだけで、ブロードバンドに対するブロードバンド接続は切断されません。

IPv6 環境で使う

本機は次世代インターネット・プロトコルである「IPv6」(Internet Protocol Version 6)に対応しています。本機では従来の「IPv4」に関する機能も継承しているため、既存のネットワークに影響を与えずに、「IPv6」を利用できます。

ご注意

プロバイダがIPv6に対応していない場合、IPv6環境でインターネットに接続できません。契約しているプロバイダがIPv6接続サービスを提供しているかどうか、あらかじめご確認ください。

IPv6ネットワーク

- エンドーエンドの通信、双方向通信が可能
- 家電製品、自動車、携帯電話機もインターネットに接続できる

IPv4ネットワーク

アドレス不足によりプライベートアドレスを使用している場合、エンドーエンドの通信、双方向通信ができない。

IPv6を導入する前に

IPv6とIPv4のネットの環境を混在させるときのご注意

「IPv6」は、「IPv4」との互換性がないため、それぞれのネットワークが混在するときには、双方を併用するために移行技術(Transition Mechanism)と総称される仕組みが必要になります。また、一般的には、IPv4からIPv6への移行は複数の段階を踏むため、各段階に応じた移行技術が必要になります。

本機では、移行技術としてIPv4ネットワークを経由してIPv6ネットワークを接続するための「IPv6 over IPv4 トンネリング」、IPv6ネットワークを経由してIPv4ネットワークを接続するための「IPv4 over IPv6 トンネリング」をサポートしています。

プロバイダからの設定情報を確認してください

IPv6接続サービスを契約すると、以下の情報がプロバイダから提供されます。

- プレフィックス(アドレスブロック)
- 接続方法(ネイティブ接続／デュアルスタック接続／トンネル接続)
- トンネルの終端アドレス(トンネル接続の場合)
- 経路制御方法(RIPngを使うか使わないか。特に記載がない場合、RIPngは使用しません。)
- 接続の確認方法(ping6の相手アドレスや、閲覧するWebサイトなど)

Windows XPでIPv6を使うには

コマンドプロンプトで以下のコマンドを入力します。

```
ipv6 install
```

詳しくは、Windowsのヘルプを参照(キーワードにipv6を入力して検索)してください。

IPv6をえるように設定する

設定を始める前に、IPv6で接続する相手(プロバイダ)を登録しておいてください。

ご注意

プロバイダを登録していない場合は、以下の操作を行ってもエラーが発生します。登録していない場合は、接続方法に合わせて「接続設定」-「新規登録」画面で接続先のプロバイダを登録してください。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

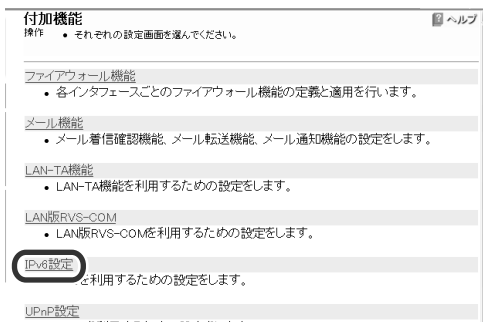
2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

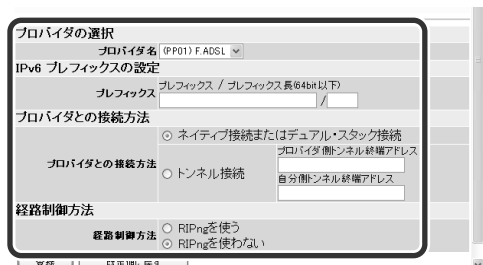
3 画面左側の[付加機能]をクリックする。

RT60wの場合は[かんたん設定]の[付加機能]をクリックします。

4 [IPv6機能]をクリックする。



5 必要な項目を設定する。



プロバイダ名

IPv6で接続するプロバイダを選びます。

プレフィックス

プロバイダから指定されたプレフィックス(またはアドレスブロック)を入力します。IPv6のプレフィックス(ネットワーク部)を64ビット以内で指定します。

プレフィックス長(「/」以下の値)は64ビット以下で設定してください。64ビット以上の値を入力すると、入力エラーになります。

プロバイダとの接続方法

プロバイダにIPv6接続する際の、接続方法を指定します。接続方法はプロバイダの提供しているサービスによって決まります。契約内容に合わせて設定してください。

- **ネイティブ接続またはデュアル・スタック接続:** ネットワークをすべてIPv6環境で構築している場合に選びます。IPv6で構築したネットワークにIPv6のパケットを流すため、IPv6環境の機器がIPv4ネットワークにアクセスできなくなりますので、ご注意ください。

- **トンネル接続:** ネットワーク上にIPv4環境の機器が多く存在する場合に選びます。IPv4のネットワーク内部にIPv6用の仮想的なトンネルを設置して、IPv6のパケットをカプセル化してIPv4のネットワーク上に流します。
この場合、プロバイダから指定されたトンネル終端アドレス(プロバイダ側、自分側)を設定する必要があります。

経路制御方法

RIPng(動的経路)で経路制御するかどうかを指定します。契約内容に合わせて設定してください。プロバイダの資料に経路制御手法について何も記載されていない場合は、[使わない]を選びます。

- **RIPngを使う**:RIPng(動的経路)で経路制御を行います。
- **RIPngを使わない**:静的経路で経路制御を行います。

6 [登録]をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、設定が登録されます。

IPv6接続を確認する

以下の手順で、IPv6環境が正しく設定されているかどうか確認します。

ヒント

パソコンとRTA54iは、LANケーブルで接続した時点で通信可能になります。パソコン側での設定は、特に必要ありません。

1 LAN側の接続を確認する。

LANポートに接続されたパソコンから、RTA54iのLAN1アドレスにping6を実行します。返事があれば、正しく設定されています。

ヒント

RTA54iのLAN1アドレスは、プレフィックスに「1」をつけたアドレスになります。

例:プレフィックスが「fec0:12ab::/64」の場合

- LAN1アドレスは「fec0:12ab::1/64」になります。
- RTA54iのLAN1アドレスにping6を実行するには、「ping6 fec0:12ab::1」とコンソールで入力してから、Enterキーを押します。

2 LAN側とWAN側の接続を確認する。

プロバイダへping6を実行したり、専用のWebサイトを閲覧するなど、プロバイダから指定されている確認手順を行います。

これでIPv6環境が利用できるようになりました。

UPnP 機能

UPnP機能とは？

UPnPとは、Univesal Plug and Playの略で、UPnP対応OSがUPnP対応機器を自動的に検出するなどの機能のことです。2002年7月時点でのUPnP対応OSは、WindowsMeおよびWindowsXPのみです。

本機はUPnPに対応しているため、ネットボランチのLAN内にあるパソコンからWindows MessengerやMSN Messengerの音声チャットなどを利用できます。

ご注意

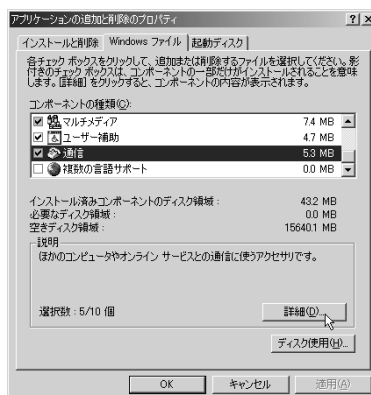
- 本機のUPnP機能は、UPnP Forumで規定されている機能すべてに対応しているわけではありません。
 - CATV接続など、プロバイダから割り当てられるIPアドレスがプライベートIPアドレスの場合は、UPnP機能を使用したWindows MessengerやMSN Messengerによる音声チャットは使用できません。
 - 「かんたん設定」画面でUPnP機能の設定を行うには、あらかじめ接続プロバイダを登録しておく必要があります
 - プロバイダを登録せずにWindows MessengerやMSN MessengerなどのUPnP環境を必要とするソフトウェアを起動すると、ルータとの通信に時間がかかるようになります。この場合は接続プロバイダを登録するか、UPnP機能を停止してください。
 - Windows MessengerやMSN Messengerの終了／起動を繰り返したり、ルータの再起動や回線の切断などによってパソコンとルータでUPnP機能の情報が異なると、正常に接続できなくなることがあります。
- この場合は、回線を接続した状態でいったんWindows MessengerやMSN Messengerをサインアウトしてから、Windows MessengerやMSN Messengerを再起動します。それでも接続できない場合は、パソコンを再起動してください。

パソコン側でUPnP機能を使えるか確認する

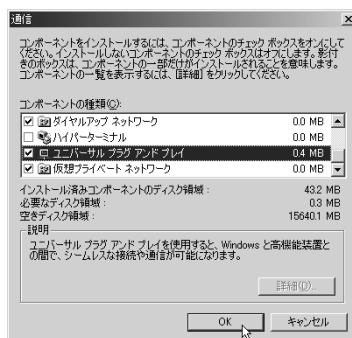
以下の手順で、お使いのパソコンがUPnP機能を使える状態かどうか確認してください。

WindowsMeの場合

- 1 [スタート]ボタンをクリックしてから、[設定]－[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [プログラムの追加と削除]をクリックする。
- 3 [Windowsファイル]タブをクリックする。
- 4 [通信]をクリックして選んでから、[詳細]をクリックする。



- 5 [ユニバーサル プラグ アンドプレイ]にチェックが付いているかどうか確認する。



- チェックが付いていれば、パソコン側でUPnP機能が利用できるようになっています。
- チェックが付いていない場合は、引き続き手順6以降の操作を行います。

6 [ユニバーサル プラグ アンドプレイ]にチェックを付けてから、[OK]をクリックする。

7 [OK]をクリックする。

以後は画面の指示に従って、インストールを行ってください。

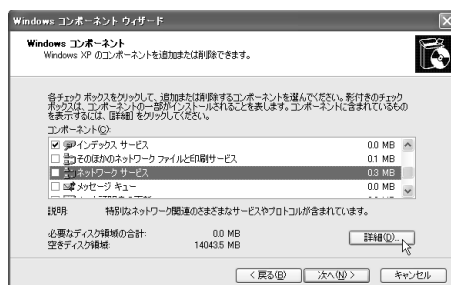
WindowsXPの場合

1 [スタート]ボタンをクリックしてから、[コントロールパネル]をクリックする。

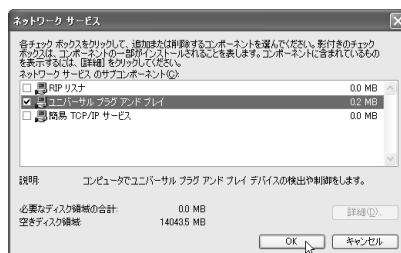
2 [プログラムの追加と削除]をクリックする。

3 画面左側の[Windowsコンポーネントの追加と削除]をクリックする。

4 [ネットワークサービス]をクリックして選んでから、[詳細]をクリックする。



5 [ユニバーサル プラグ アンドプレイ]にチェックが付いているかどうか確認する。



- チェックが付いていれば、パソコン側でUPnP機能が利用できるようになっています。
- チェックが付いていない場合は、引き続き手順6以降の操作を行います。

6 [ユニバーサル プラグ アンドプレイ]にチェックを付けてから、[OK]をクリックする。

7 [次へ]をクリックする。

以後は画面の指示に従って、インストールを行ってください。

UPnPを使用しないようにする／ 設定を変更する

本機のUPnP機能は起動時から動作するため、起動するために特に設定をする必要はありません。ただし、使用環境によっては、UPnP機能がうまく動作しない場合があります。この場合は以下の手順にしたがって、設定を変更してください。

1 Webブラウザを起動して、本機の「かんたん設定ページ」を開く。

「http://setup.netvolante.jp/」または本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を入力して開きます。

「ネットワーク パスワードの入力」画面が表示されます。

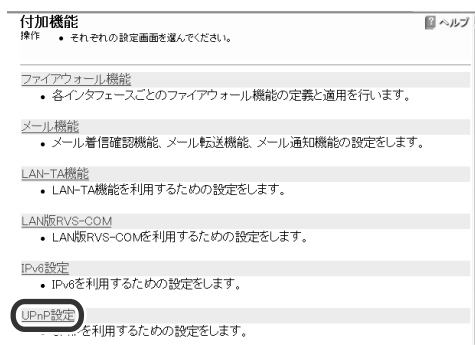
2 [パスワード]入力欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。

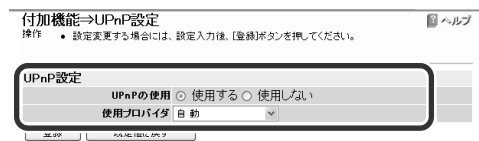
3 画面左側の[付加機能]をクリックする。

RT60wの場合は[かんたん設定][付加機能]をクリックします。

4 [UPnP機能]をクリックする。



5 必要な項目を設定する。



UPnPの使用

UPnP機能を使用する時は、[使用する]を選びます。

使用プロバイダ

UPnP機能を適用するプロバイダを選択します。通常は[自動]にします。

6 [登録]をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、設定が登録されます。